

モモ優良台木「ひだ国府紅しだれ」はモモ若木の枯死障害を受けにくい			
[要約] 「ひだ国府紅しだれ」は、岐阜県で育成されたモモ台木品種で、その実生台木は本県モモ主要品種「あかつき」の若木の枯死障害軽減に有効である。また、慣行台木の「おはつもも」等と比較して、果実収量は同等～やや多く、果実品質は同等である。			
農業総合センター山間地帯特産指導所	平成26年度	成果区分	普及

1. 背景・ねらい

近年、凍害が原因と考えられるモモ若木の枯死障害が全国的に増加しているが、本県のモモ産地においても、結実し始めのモモ若木の枯死や樹勢衰弱が問題となっており、その対策が求められている。

そこで、近年有望な台木品種・系統を収集・作付し、本県産地で作付の多いモモ中生品種「あかつき」の生育を比較することで、枯死障害に強い優良な台木品種を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

1) 「ひだ国府紅しだれ」の実生を台木とした「あかつき」{以下、2. 4)まで台木名のみで表記}は、5年生樹まで枯死がなく、他の供試台木品種・系統の実生台木と比較して枯死しにくい(表1)。また、他の台木品種・系統の実生台木では、いずれも結実開始樹齢とほぼ重なる2~4年生の間に枯死が発生している。

2) 5年生樹までの主幹部障害の発生は、慣行台木「おはつもも」等と比較して、「ひだ国府紅しだれ」で軽減される(図1、表1)。

3) 「ひだ国府紅しだれ」の樹勢は、「おはつもも」と同様に中程度で、幹周は「おはつもも」よりやや細く、樹冠面積は主幹部障害の程度も軽いため、供試台木の中では広めである(表2)。

4) 「ひだ国府紅しだれ」の1樹あたりの累積収量は、「おはつもも」よりも多く、「筑波4号」や「筑波5号」と同程度である(表2)。果実品質は、「おはつもも」や他の供試台木と同様である。

3. 成果の活用面・留意点

1) 本成果は、連作ほ場において実生台木を利用した結果であり、供試した台木の特性は表3のとおりである。

2) 本成果は年間平均気温12.2℃、冬季(12月~2月)の日平均最低気温-4.4℃(大子アメダス)の久慈郡大子町の山間地帯特産指導所内で調査した結果であるが、県下全域で適用可能である。ただし、「あかつき」以外のモモ穂品種では試験は未実施である。

3) 「ひだ国府紅しだれ」は、台木又は穂品種を接いだ苗木の状態でも市販が開始されている。

4. 具体的データ



図1. 「ひだ国府紅しだれ」(左)と「おはつもも」(右)を台木とした5年生「あかつき」の主幹部(左)障害程度1、(右)障害程度5
※障害程度は表1注釈参照

表1 台木の違いが「あかつき」5年生樹までの樹齢別枯死樹数及び主幹部障害の発生に及ぼす影響

台木品種・系統名 ¹⁾	供試樹数	枯死樹数(樹)					障害程度 ²⁾ (樹)						
		H23	H24	H25	H26	合計	0	1	2	3	4	5	6
		2年生	3年生	4年生	5年生								
ひだ国府紅しだれ	6	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	0	0
長野野生桃	6	1	1	2	0	4	0	2	0	0	0	0	4
筑波4号	6	0	1	1	0	2	0	0	1	0	1	2	2
筑波5号	6	0	2	0	0	2	0	0	1	2	0	1	2
おはつもも(慣行)	6	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	4	2

1) 平成21年9月に芽接ぎ、平成22年3月に列間7m×樹間3mで定植し、2本主枝の開心自然形で管理

2) 障害程度は、岐阜県の障害程度指数を参考にし、主幹部障害を、0:無、1:表皮のみ亀裂、2:皮層部亀裂、

3:被害部位の長さが10cm未満、4:同30cm未満、5:同30cm以上、6:皮層部、木質部が褐変し枯死とした

表2 台木の違いが「あかつき」5年生樹までの生育・収量・果実品質に及ぼす影響¹⁾

台木品種・系統名	供試樹数	樹勢 ²⁾	幹周長 ³⁾ (cm)	樹高 ³⁾ (m)	樹冠面積 ³⁾ (m ²)	収穫 ⁴⁾ 盛期	累積収量 ⁴⁾ (kg/樹)	平均果重 ⁴⁾ (g)	糖度 ⁴⁾ (Brix%)	硬度 ⁴⁾ (kg)
ひだ国府紅しだれ	6	中	41.1	3.1	27.3	8/2	54.0	335	13.5	2.1
長野野生桃	6	中	45.0	3.3	25.8	8/1	37.4	296	12.7	2.1
筑波4号	6	やや弱	40.5	3.0	23.3	7/31	50.5	330	12.6	2.2
筑波5号	6	やや強	43.9	3.1	30.2	8/3	50.4	324	12.3	2.0
おはつもも(慣行)	6	中	44.8	3.1	20.1	8/1	37.9	314	12.7	2.0

1) 発芽期及び開花盛期は、いずれも平成23～26年度の生存樹の平均で、3月15日及び4月14日である

2) 平成23～26年度の生存樹の平均値 3) 平成26年度の生存樹の平均値

4) 平成24～26年度の生存樹の平均値(累積収量は平成24～26年度の生存樹平均の合計値)

表3 供試台木の特性¹⁾

台木品種・系統	来歴	台木特性
ひだ国府紅しだれ	岐阜県育成品種	八重咲き、枝垂れ性、深根性
長野野生桃	長野県下伊那原産	緑葉
筑波4号	果樹研究所育成系統	ネコブセンチュウ抵抗性、赤葉、生育抑制◎
筑波5号	果樹研究所育成系統	ネコブセンチュウ抵抗性、赤葉、生育抑制○
おはつもも(慣行)	長野県下伊那原産	慣行台木、ジャワ・サツマイモネコブセンチュウ抵抗性、緑葉

1) 出典:岐阜県研究成果、農業技術体系 果樹編6

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

モモの硬核期判定による摘果法の開発と台木品種の選定

平成22～平成26年度・山間地帯特産指導所